

上市町学校教育審議会（第2回）

- 1 日 時 令和5年7月19日(水) 18時56分～20時46分
- 2 場 所 上市町役場 4階大ホール
- 3 審議委員 20名
- 4 出 席 小竹副町長、牧田教育長、平井事務局長、
平井教七次長
〔 スタッフ 教委：藤田局長代理、廣瀬主事 〕
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

- ・ 小学校の適正規模に関する基本的な考え方について（確認）
平井教育委員会事務局長より説明

— 教育委員会が示す学級数、1学級の児童数、通学距離と通学時間について採択の結果、提案内容のとおり承認。

- ・ 学校統廃合の具体的な枠組みについて

平井教育委員会事務局長より別紙資料に基づき説明

統合3案のうち案1については、校区懇談会で示していたスケジュールに合わせ、できるだけ早い時期、最短で令和10年に新校舎を完成させ、児童の負担軽減のため、統合は一度としたもの。

しかしながら、地区への説明に加え、どのような学校を整備するのかという合意形成も丁寧におこなう必要があること、校舎の基本設計・実施設計についても、統合校としての規模を考えると2年程度が必要であり、さらに資材調達等の現状からすると工期の延長も考えられることから、令和10年での完成は非常に困難な状況にある。

案2については、上市中央小以外で各学年の児童数が一桁になってくる可能性がある令和12年を目安に統合を行うとしたもの。また、それまでの間、白萩西部小と陽南小の複式回避のため、先行して2校を統合、または両校の上市中央小への統合を進めるとしたものである。

案3については、できるだけ現校舎を学校として活用したいとのことから出した案である。上市中が築60年を超え、最も新しい白萩西部小も築47年となり、再三の大規模改修がどの校舎でも必要となる令和15年を目

安に統合を行うこととしたもの。

しかしながら、委員からの事前意見にもあるように、案3は、統合が複数回に及び、子どもたちの負担を考えると、望ましい案とは考えていない。また、決して上市中央小跡地に新校舎を建設すると仮定した案ではない。現在、上市中央小がある場所は、小中一体の校舎とする場合、面積がやや狭く、拡張するにも余地があまりないことに加え、スクールバスの出入りの点、校舎とグラウンドの間に用水が走るなど、新校舎建設の面から課題は多いと考えている。

次に、いただいた質問について、中でも既に新校舎の予定地などは決まっているのかなど、校舎建設への質問が多くあった。

新校舎建設の方針については、現在、関係部署での検討を開始したところである。審議会での協議の行方や、意見を参考に、検討を進めていきたいと考えている。

また、案3により上市中央小を分散した際の各校の学年ごとの人数について質問があったため、別紙に分散シミュレーションの際に作成した年度ごとの各校の児童数と上市中央小校区を各校に仮に振り分けた表を追加資料とした。それぞれにできる限り徒歩通学が可能な範囲で割り振ってはいるが、そもそもこの地区分けについての理解が得られるかという大きな課題がある。

委員から子どもの数を増やすような町の取組みを知りたいとの質問があったため、小竹副町長から出産支援や育児支援（「若年・子育て世帯定住促進」、「0円空家バンク」、「産後ケア事業」）について説明

・質疑応答（19時24分～19時45分）

委員①

校舎の老朽化が進んでいることから、新校舎を造るという方向性は変わらない。それであれば案1とし、次の時代に向けて一斉にリスタートしていければという思いを持っている。

委員②

案3については、統合時期が一番遅くなってしまうということと、上市中央小の跡地は建替えには不向きであるということから、協議から省いてもいいのではないか。

委員③

個人的に、案3は反対である。児童数の多い上市中央小を分散させるよりは、児童数の少ない白萩西部小、陽南小をまず統合させた方がいいので

はないか。複式学級を解消させることが先決と思う。

委員④

案3は上市中央小の跡地に新しい校舎を建てるためのものと思っていた。それが難しいのであれば、案3はしない方がいい。白萩西部小と陽南小の子どもたちのことを考えると少しでも多くの人数で教育を受けさせてあげたいと思う。案1を進めつつ、案2の検討を行った方がいいのではないか。

委員⑤

案1に関して、令和10年の統合が先延ばしになるのであれば、案2の複式学級の解消が先決なのではないか。

委員⑥

当初は案3と考えたが、現実的に上市中央小を分散させるというのは、子どもたちへの負担が大きすぎる。案2についても、子供たちへの負担はあるがより現実的と思う。

案3は、統合時期が一番遅くなることや、上市中央小の跡地は建替えには不向きであるということもあり、省いてもいいのではないか。

委員⑦

案1の方が、負担が少なくいいのではないかと考えていたが、校舎の建設が遅れるとなると、先に白萩西部小と陽南小の統合を考えるべき。ただし、保護者や地域にヒアリングをして、慎重に進めなければならないと思う。

教育委員会事務局長

地域となると年代によっても様々なご意見があるだろうが、当事者である保護者にアンケートをとる方法もあると思う。

委員⑧

複式を解消するため、白萩西部小と陽南小の統合を早急にするというのは、親としては有難いことと思う。上市中央小に白萩西部小と陽南小が吸収されるというのであれば、両地区ももめないと思われ、また、子どもたちにとってクラス替えもできるような学校生活を送れる方がいいのではないか。

議長

事務局からの説明を受け、委員から案3は無理があるという意見もあった。今後の協議では案3は外して、案1、案2に絞って検討していくことでよろしいか。

一 採択の結果、案3を協議から外すことを承認

・義務教育学校の評価について

平井教育委員会事務局長より別紙資料に基づき説明

小中一貫教育に取り組む形態として、義務教育学校と小中一貫教育校の大きな違いは、義務教育学校は一人の校長、一つの教員組織で運営されるという点である。

小中一貫教育をより効果的に進めていくには、学校のマネジメントが重要であり、マネジメントの要点となる意思決定においては、組織が一つであることが利点となると考えている。

施設面から見ると、当町のように新校舎の建設を前提とするのであれば、小中一体型とすることにより、小中間だけではなく、地域との共有スペースも備えた施設として建設することが望ましいと考えている。

義務教育学校のデメリットとして、9年間、区切りがなく、同一の集団であるという面が指摘されているが、本町では1学年3学級程度の編制となるため、定期的なクラス替えもできるなど、多過ぎず少な過ぎない人数は教育的メリットも高いと考えている。

また、6年生のリーダーとしての活躍の機会については、例えば4・3・2制であれば、それぞれの区切りの中で役割を入れ、リーダーシップなど、活躍の機会を組み入れることは十分に可能であり、より長い9年間のスパンで、子どもたちの責任感、自主性、思いやりを育てていくことができるものと考えている。

・質疑応答（19時52分～20時42分）

委員⑨

9年間、1年から6年を前期、7年から9年を後期、といった区分けがされるのか。

教育委員会事務局長

必ずしも前期・後期という形ではなく、これまでの6・3制とするのか、5・4制、4・3・2制で行くのか、学校でどういった教育を目指すかによって決めていくものと考えている。

委員⑨

4・3・2と区切りをつけた場合、4年が過ぎたら一区切りということで、修了証書を出すとか、何か変化が必要ではないか。

教育委員会事務局長

区切りで出す修了証書などについては特に制限があるものではない。すでに義務教育学校に移行した学校でも、6年生で一旦卒業式のような形をとっている学校もあると聞いている。

全国的には4・3・2制が一番多いと思うが、近隣の高岡の国吉義務教育学校では、従来の6・3制をとっている。

委員⑨

9年になると、校長一人だと負担も重いのではないか。副校長や教頭を複数設置することは可能なのか。

教育委員会事務局長

基本的に、教頭は二人の配置になる。

委員⑩

上市中学校の部活動は地域に移行しているが、9年制となると全国大会出場など事務的に問題はないのか。

教育委員会事務局長

大会出場については問題がない。義務教育学校として取り組んでいる例として、5年生からクラブ活動という形で、部活動に参加させている学校もある。

委員⑥

義務教育学校になったら、指導内容も変わるので、先生に対する研修会なども実施する必要があるのではないか。

教育委員会事務局長

小中連携ということから、今でも研修は必要であり、連携の在り方や研修内容について教育センター主導で検討しているところである。

委員②

県内の義務教育学校は3校あるが、小規模なところがほとんどであり、児童・生徒数も200から300人程度だと把握している。上市町で義務教育学校にした時は800人を超える大規模となる。大規模義務教育学校の情報

が少なすぎるので、全国的情報を教えてください。

教育委員会事務局長

全国的には、大規模校は都市部に多いと聞いている。情報収集させていただきたい。

委員②

令和8年の上市中央小、白萩西部小、陽南小の統合を令和7年からという考えはないか。建設が遅れ、令和12年から13年となった場合、統合スタートが令和7年であれば、小学校1年の子が途中で義務教育学校に移行とならず、6年間同じ学校で過ごすことができる。

教育委員会事務局長

地区や保護者への周知の期間や学校の準備などを考えると令和7年というのは厳しいと思う。

委員②

義務教育学校は校長の下に補佐する副校長がおり、最初の6年と、後の3年に教頭が一人ずついると、やりやすいのではないか。

委員⑪

義務教育学校の魅力は、9年間を見通して、どんな子供たちを育てたいのか、旅立っていく児童生徒像をしっかりと進めていける教育なんだと理解できる。連携と一貫はかなり違うのだということも知った。一貫になると、教職員が9年間分の児童生徒を見ていくということで、教員の意識改革は必要だと思う。上市町の特色ある教育を町全体でどれだけ準備して進めていくかが、理想的な義務教育学校を進めていく上での大事なポイントだと思う。

委員⑫

仕事で私立の大学を見る機会があり、キャンパス内に幼稚部から大学生までいた。私立の大学の教育方針や手腕を参考にされればと思う。

議長

縦に9学年となることから、いろいろなやり方があると思う。上の学年の子が下の学年の面倒をみるという試みもある。

教育委員会事務局長

国吉義務教育学校を見学した時に、小学校1年生の下足の上に中学校3年生の下足を置いていた。自然に交流が生まれるようにしてあり、中学生が幼い子供たちの気を遣うようになったと聞いている。私立には中高一貫で培ったノウハウもあり参考にしていきたい。

委員⑤

義務教育学校になった時に、PTAの在り方も考えていかなければならないのではないか。

教育委員会事務局長

現在、上市中でもコミュニティスクールを進めているが、地域と学校が協働していく中で、組織的にどのような形が望ましいのか検討していく必要がある。PTAの在り方についてはいろいろな考え方があると思うが、PTAは教育委員会が組織するものではなく会員で運営されるべきものと考えている。

委員⑧

統合案2となった場合、令和8年からの統合が遅れるということはあるのか。

教育長

案2でとなれば、令和8年の2校統合、あるいは3校統合に向け準備を進めていきたい。

委員③

3校統合の方が、地域の理解も得られると思う。少人数校の子どもや親も、あたたかく受け入れてもらえるのかという心配があり、サポートがあると助かる。

教育委員会事務局長

3校でとなった場合、上市中央小には制服があるが、例えば統合の時点で制服をなくすなど子たちが溶け込みやすいような形をつくることは大切だと思う。

委員⑤

3校で統合となった場合、白萩西部小と陽南小の建物の今後の利用方法を同時進行で進めてもらいたい。

副町長

白萩西部小、陽南小が統合して空き校舎になる場合には、同時進行とまでは言えないが、早めに活用方法を考えていくべきと思う。

委員⑧

小学校はなくなってしまうが、こういう風に活用していきたいということを提示された方が、地域住民の理解を得られやすいのではないか。

教育委員会事務局長

学校には避難施設の役割もあることから、例えば少なくとも体育館を残していく必要はあると思うが、学校は転用が難しい施設でもあり、また老朽化等の課題もあることからすべてを残すことは難しいと思う。

委員①

統合のあと現校舎がどうなるのか地域の方は心配されている。後利用について地域に示していく必要がある。

(4) 連絡事項

- ・義務教育学校の視察について
- ・報酬等の支払いについて

(5) 閉会

以上